

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
経営学部経営学科	張 海燕	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

前期担当科目:

【経営学部】

経営学総論A(経営学科)*代表教員(2回分を担当)

経営学総論A(スポーツマネジメント学科)*代表教員(2回分を担当)

コミュニティビジネス(経営学科)

フィールドワーク A

プレインターンシップ

基礎ゼミ I

研究ゼミナール I

研究ゼミナール 3

研究ゼミナール 5

後期担当科目:

【経営学部】

観光概論

ベンチャー起業論(経営学科)

ベンチャー起業論(スポーツマネジメント学科)

基礎ゼミ 2

研究ゼミナール 2

研究ゼミナール 4

研究ゼミナール 6

【経営学研究科】

<博士前期課程>前期

経営学特別演習 I

経営学特別演習 III

経営戦略特論

<博士前期課程>後期

経営学特別演習 II

経営学特別演習 IV

ベンチャー起業特論

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

私は、学生に問題解決力や変化への対応力を養うことを重視しています。この力は企業だけでなく、地域社会にも同様に重要です。経営学の理論や方法は、企業経営のみならず、地域の発展や課題解決にも活用できるものであり、学生には現場での実践を通じてこれを学び、解決策を導き出せる力を身につけさせることを目指しています。特に、地域社会の活性化や持続可能な発展には、資源の有効活用や地域ブランディングと

いった経営学のアプローチが欠かせません。学生には、地域固有の文化や自然資源を活かしながら、地域の発展に貢献する方法を学ばせています。

また、生涯学習の重要性に気づかせることも重視しています。企業や地域社会が絶えず変化する中で、学生が新たな価値を創造し続けるためには、常に学び続ける姿勢が不可欠です。学生には、生涯にわたって自己成長を追求し、企業や地域に貢献できる人材となるための持続的な学びの大切さを伝えています。

こうして、経営学を通じて企業や地域の発展に貢献できる人材を育成し、どんな環境でも即戦力として活躍できるよう支援しています。地域の課題解決や持続可能な発展に取り組むことで、学生が広い視野を持ち、社会全体に貢献できる人材へと成長することを目指しています。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

私の教育方法では、知識伝達とアクティブラーニングを効果的に組み合わせることを重視しています。アクティブラーニングでは、例えば、Think and Pair ではペアになって短時間で意見交換を行い、他者の視点を取り入れることで学生自身の考えを深める機会を与えています。逆転講義では、学生に事前に事例を調査させた上で授業内でディスカッションを行い、学生同士で知識を教え合うことで、理解を深めながら実際に知識を活用する力を育成しています。グループワークでは、プレゼンテーションやポスター作り、ポスターツアーなどの活動を通じて、学生同士が協力しながら情報を整理・共有し、自分の考えを効果的に伝えるコミュニケーションスキルを育てています。特に、これらのアクティブラーニング活動においては、フィードバックを通じた振り返りと改善のプロセスを重視しています。

また、フィールドワークも私の教育手法の重要な一環だと考えています。例えば、工場見学や商店街見学を通じて、ビジネスの現場、地域の課題を直接体験し、経営学の理論がどのように実践されているかを学びます。文化遺産の見学では、歴史的な背景や地域資源の活用方法を理解し、地域活性化や観光振興といったテーマを現地で体験します。これらの見学は単なる体験にとどまらず、知識伝達の方式で視察先についての事前学習を行い、学生が質問事項や調査の準備をした上で現地調査を行います。現場での体験後には、現場の職員から講演を受け、その後学生が質問や提案を行います。事後にはレポートとパワーポイント作成させ、合同ゼミでのプレゼン大会を行います。これにより、他の学生の意見を取り入れ、自分たちのグループの成果を振り返り、さらに改善策について考えることができます。このように、知識伝達と実践的な学びを融合させることで、学生が理論を深く理解し、現実の問題に対応できる能力を身につけることを目指しています。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

私が取り組んできた教育方法の成果は、まず、学生間のコミュニケーションが深まり、個人の表現力が向上しました。グループワークやプレゼンテーション活動を通じて、学生同士の意見交換が活発になり、発言や表現に対する自信もつきました。結果として、学生一人ひとりが自分の考えを明確に伝える能力が高まったと感じています。また、学生が作成するポスターやパワーポイントの質が向上しました。最初は戸惑っていた学生も、授業が進むにつれて自分の成長を実感し、成果物のクオリティが向上していく様子が見られました。授業アンケートのコメントでも、アクティブラーニングの取り組みに対して好評が寄せられ、「自分の成長を感じられた」「実際に役立つスキルが身についた」といった意見が多数ありました。さらに、フィールドワークでは、企業や地域の課題を直接目にし、対策を積極的に考える姿勢が学生の中に芽生えました。これにより、現実の問題に対する使命感が醸成され、モチベーションの向上にもつながりました。学生にとって、このような経験は新鮮であり、実際の課題解決に向けて自ら積極的に取り組む姿勢が強化されました。そのため、多くの学生が自分の興味を持つテーマを自主的に調査し、自ら対策を考えるようになりました。

【目標】(今後どうするか)

今後は、現在のアクティブラーニングやフィールドワークをさらに発展させ、より多様な学びの機会を提供することを目指します。具体的には、学生の主体的な学習への取り組みを一層強化し、授業外での自主的な活動を促進する環境作りに取り組みます。例えば、地域や企業との連携を深め、現場での見学やプロジェクト型学習を増やすことで、実践力の向上を図ります。また、授業においても、フィードバックの質をさらに高め、学生一人ひとりの成長をしっかりとサポートできる体制を強化していきます。